

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）通学・通信）

事業者名： 学校法人 二階堂学園

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解 6. 6時間 (400分)	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左 3. 3 (200)	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左 3. 3 (200)	(2) 【講義及び演習】視聴覚教材の使用と、現場経験のある講師の体験談を聞き、感想を個人で発表する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援 9. 1時間 (550分)	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左 5. 8 (350)	(1) 講義のみ
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左 3. 3 (200)	(2) 【講義及び演習】自立・自律についての理解と、事例を通して具体的な個別支援について話し合い発表する。
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本 6. 7時間 (400分)	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左 1. 7 (100)	(1) 【講義及び演習】専門職及び関連専門職の理解とAさん(75歳パーキンソン病在宅療法)の事例に関わる専門職についてグループで話し合い発表する。
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左 1. 7 (100)	(2) 講義のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左 2. 5 (150)	(3) 講義のみ
(4) 介護職の安全		(4) 同左 0. 8 (50)	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9. 1時間 (550分)	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 3. 3 (200)	(1) 【講義及び演習】制度の理解と事例を用いてサービス提供までのプロセスについてまとめる。
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左 2. 5 (150)	(2) 講義のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 3. 3 (200)	(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6. 6時間 (400分)	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3. 3 (200)	(1) 講義のみ
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3. 3 (200)	(2) 【講義及び演習】事例を用いて情報の共有に対する理解を深め、チームケアにおけるコミュニケーションの大切さを理解する。
6 老化の理解 6 時間	6 老化の理解 6. 6時間 (400分)	6 老化の理解
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	(1) 同左 3. 3 (200)	(1) 講義のみ
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3. 3 (200)	(2) 【講義及び演習】事例を用いて(1)で理解した内容を用いて話し合いを行う。道具を使用し高齢者の体験を行う。
7 認知症の理解 6 時間	7 認知症の理解 6. 6時間 (400分)	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 0. 8 (50)	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 2. 5 (150)	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	(3) 同左 2. 5 (150)	(3) 【講義及び演習】視聴覚教材(認知症利用者の生活の様子)を用いて実際の症状・対応等についてレポートにまとめる。
(4) 家族への支援	(4) 同左 0. 8 (50)	(4) 事例を用いてグループごとに話し合い発表する。

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ことろとからだのしくみと生活支援技術	7 5 時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関することろのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3. 3時間 (200分)
(1) 同左	0. 8 (50)
(2) 同左	1. 7 (100)
(3) 同左	0. 8 (50)
9 ことろとからだのしくみと生活支援技術	75. 3時間 (4520分)
ア 基本知識の学習	10. 8時間 (650分)
(1) 同左	3. 3 (200)
(2) 同左	3. 3 (200)
(3) 同左	4. 2 (250)
イ 生活支援技術の講義・演習	54. 5時間 (3270分)
(4) 同左	3. 3 (200)
(5) 同左	3. 3 (200)
(6) 同左	3. 3 (200)
(7) 同左	6. 7 (400)
(8) 同左	6. 7 (400)
(9) 同左	6. 7 (400)

8 障害の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 【講義及び演習】(2)の授業をもとに予想される家族のことろの変化や困難について話し合う。また支援の方法についてグループでまとめ発表する。	
9 ことろとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 【講義及び演習】視聴覚教材や演習を通してからだのしくみの基礎的理解を深める。	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義のみ	
(5) 講義及び演習を通し福祉用具の使い方を理解し、実技演習を行う。	
(6) 【講義及び演習】更衣・整容について基本的な介助方法について講義及び実技演習を行う。また、事例にもとづいた適切な援助方法について検討・発表を行う。	
(7) 【講義及び演習】移動・移乗について基本的な介助方法について講義及び実技演習を行う。また、演習を通しボディメカニクスについての理解とそれらを活用した介助方法について検討・発表を行う。	
(8) 【講義及び演習】栄養の基本的な理解と、食事が身体に与える影響について、実際に食事介助の講義及び演習を行う。	
(9) 【講義及び演習】入浴・清潔保持について基本的な介助方法について講義及び実技演習を行う。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130時間)	

(10) 同左	6.7 (400)
(11) 同左	3.3 (200)
(12) 同左	2.5 (150)
(実習)※	12時間 (720分)
同左	8 (480)
同左	4 (240)
ウ 生活支援技術演習	10時間 (600分)
(13) 同左	3.3 (200)
(14) 同左	6.7 (400)
10 振り返り	4.1時間 (250分)
(1) 同左	3.3 (200)
(2) 同左	0.8 (50)
計	(134時間)

【講義及び演習】排泄の基本的な介助方法について講義及び実技演習を行う。演習を通して様々な介助方法やおむつの使用方法、陰部洗浄等を理解する。
【講義及び演習】講義を通して睡眠のメカニズム、睡眠時の注意点について理解する。また睡眠時に必要とされる配慮についてグループごとに話し合いと実技演習を行う。
【講義及び演習】尊厳ある「死」と終末期のケアについて理解する。また事例や視聴覚教材を用いて話し合い、家族及び利用者への関わり方についてレポートにまとめる。
(実習)※
各施設で実習を行う。
各施設で実習を行う。
ウ 生活支援技術演習
【講義及び演習】事例を用いて、情報の整理、アセスメント、介護計画の立案、実施、評価、修正の流れをまとめる。
【講義及び演習】事例を提示し、(1)で学んだことを念頭におきながらアセスメント・自立に向けた介護過程の展開について実技演習を交えながら検討を行う。
10 振り返り
(1) 【講義及び演習】実習を通して学んだことを振り返る。また実習中のケースについて検討・振り返りを行う。
(2) 【講義及び演習】実習施設以外の福祉施設について理解を深める。また、必要に応じて見学を実施する。
計

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。